



山下通りから思川左岸堤防ごしに日光火山群を望む。乙女。2021/08/18

田園環境都市おやまビジョンづくりに向けた  
小山市11地区の風土性調査  
報告レポート「基礎資料・概要版」

#### 間々田地区の風土性調査について

「風土」とは、地域の自然に対して人間が暮らしと生業を通して働きかけることでかたちづくられる、人々が生きる環境のこと<sup>\*1</sup>を言います。人々が生きる環境、それは私たちの身近な世界、生活世界のこと<sup>\*2</sup>でもあります。

地域の風土(生活世界)を、あらためて把握するために、

- ①地理学や民俗学的な視点で地域を見て歩く「踏査」(現地調査)
- ②アンケートや聞き取りを行う簡易社会調査
- ③小山市史や研究論文などにあたる文献調査

これらを組み合わせた風土性調査を実施しています。

間々田地区は令和6年4月から令和6年6月の期間に調査を行いました。

この概要版は、その調査成果の報告書「間々田地区 基礎資料」から主なトピックを抜粋し、一部に加筆を加えたものです。報告書の完全版(A4版77ページ)やアンケート集計結果報告書(同・63ページ)は、最後に紹介するリンクから閲覧ができます。

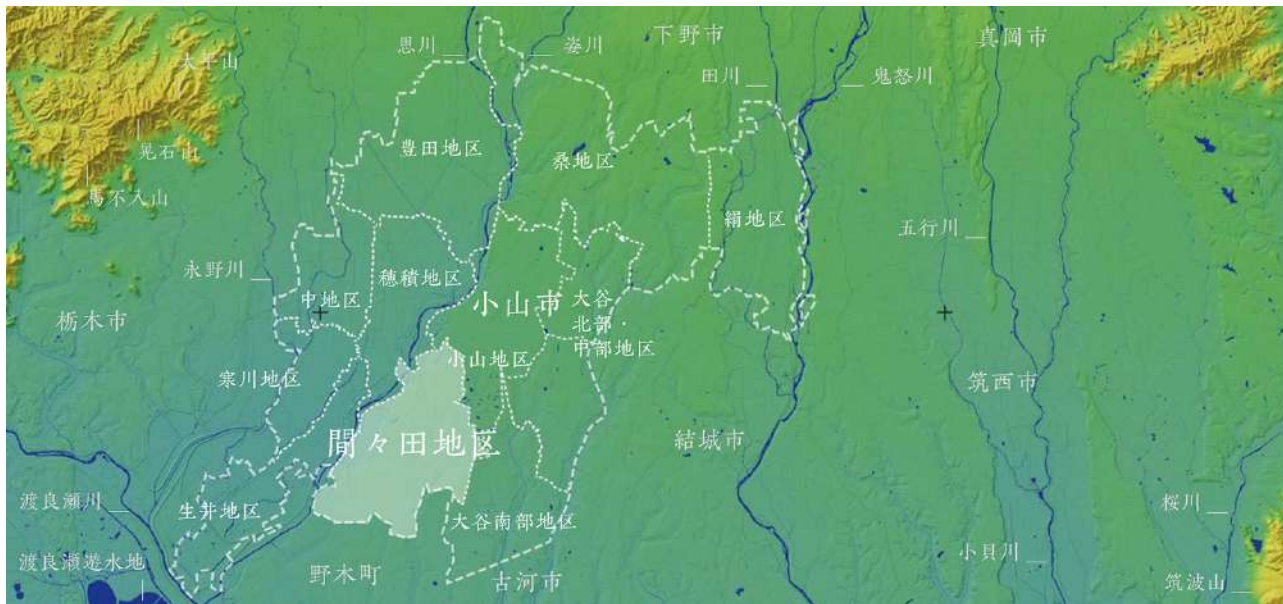
\*註1: 出典 藺田稔編『神道』(弘文堂、1988年)

\*註2: 出典 アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』(筑摩書房、2015年)

## 1 間々田地区の概況

## 小山市の基本地形と間々田地区の位置

西から思川低地、宝木（たからぎ）台地、鬼怒川低地が並び、宝木台地の東を鬼怒川、西を思川が流れています。間々田地区は小山市の南部に位置し、ほぼ宝木台地上に、西部の一部が思川低地上に立地します。



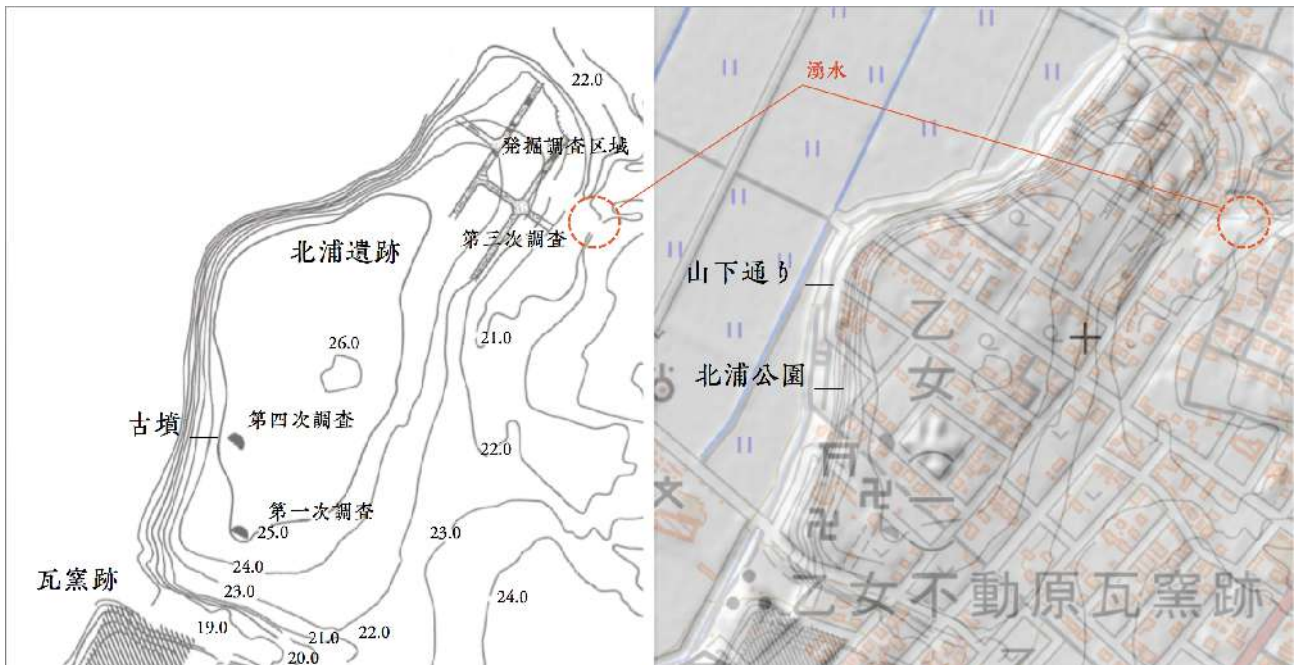
出展 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gis.go.jp/> (廣瀬改変2024年)

小山市の南部に位置。  
街道を軸に広がった市街地が、  
東西の樹林と農地にはさまれる。

間々田地区は、明治22年(1889)の町村制施行にあたり間々田宿、千駄塚、栗宮、西黒田、東黒田、南飯田、平和、乙女の一宿七村が合併した間々田村をもととします。地区の面積18.21km<sup>2</sup>は市の面積の約10.6%、人口28,825人は市の人口の約17.3%を占めます(令和2年10月1日現在。「令和6年3月 小山市の概要」より)。台地の西縁近くに旧石器時代からの遺跡が集中し、中世には鎌倉街道、近世にはこれより少し東側に日光街道が通され、間々田宿が置かれ、思川に乙女河岸が設けられて、間々田地区は交通・交易の拠点として栄えてきました。近代に入っても、鉄道駅が開業し、人が貨車を押す人車鉄道で乙女河岸と結ばれ、日光街道を踏襲した国道4号沿道を中心に市街化が進み、さらに人口増加が続いて市街地も広がりました。この市街地を、地区西部の水田と台地斜面林、東部の田畑や果樹園、平地林がはさんでいます。

## 2 | 人が住み続けてきた歴史の長い土地

小山市内では、思川に沿った宝木台地西縁に各時代の遺跡が集中しています。『小山市史I通史編 自然 原始・古代 中世』によれば、「各期を通じて遺跡数が多く、長期にわたって連続的に営まれた遺跡も目につく。縄文人にとって、最も住みよい条件があったのだろう」とのことです。



乙女不動原地形測量図(左。出典: 小山市教育委員会 1996、廣瀬改変 2024)と左図に現在の土地利用状況を重ねた図(右。出典: 国土地理院 | 地理院地図)

縄文人は台地の上に集落をつくり、四季をたくみにとらえて多種多様な食料を得てきた。

その一つが、縄文時代後期から平安時代の集落跡である乙女不動原北浦遺跡です。遺跡の北東には西側へ下る小さな谷が刻まれ、湧水があり、人々の飲み水とされたであろうと考えられます。加えて、上に挙げた市史I通史編では、「周囲に多種多様な食用動植物が存在」し、これらの食料を得るために「人びとは四季をたくみにとらえていたと思われる」と述べられます。その例として、春のゼンマイ・ワラビなどの新芽や夏の川魚、秋のドングリ、クリ、クルミなどの木の実、ヤマノイモ、クズ、ユリなどの根菜類、川を遡るサケ、冬の動物や渡り鳥の狩猟が挙げられ、木の実の貯蔵や干したり燻製にしたりしたサケの保存などについても書かれています。遺跡周辺は、小山市乙女土地区画整理事業によって市街化されましたが、思川は今も流れ、低地には水田があり、斜面には樹林が残ります。元来、間々田地区には、人が住み続けるのに適した基本条件が備わっていたようです。開発によって一部は損なわれたものの、元来、間々田地区には、人が住み続けるのに適した基本条件が備わっていたと考えられます。



### 3 | 人を中心に考えた、新旧の道

間々田地区の市街地は、近世の間々田宿をもととして拡張され、今日に至ります。龍昌寺が開かれた慶長11年(1606)前後に、同寺から北側に宿場町の整備が始まり、享保年間(1716~1736)には、街道の両側に家並みが連なる景観が形成されています。寺院は他に、宿の北部に浄光院と行泉寺が創立され、龍昌寺を合わせた三寺とも境内地を貸す門前町経営を行っていました。



左から、西館通り-乙女上町公園(乙女)、おさんみち公園に沿う歩行者専用道路(東間々田)、歩車共存道路(美しが丘)



左から、途中から幅員が狭くなる路地(乙女)、龍昌寺参道(間々田)、間々田八幡宮参道(間々田)

明治27年(1894)に日本鉄道奥州線(現JR東北本線)の間々田駅が開設され、同32年(1899)に乙女人車鉄道で乙女河岸と結ばれると、間々田地区では商工業化が進み、転入によって人口が増え、旧来の市街地に裏町と呼ばれる新街区がかたちづくられた他、鉄道駅を擁することになった乙女の側にも市街地は拡張されました。以降も人口増加は続き、市街地は北側の千駄塚、栗宮ともつながります。昭和45年(1970)からは、間々田駅東土地区画整理事業が行われ、JR東北本線の東側にも市街地が広げられてきました。このような中で残された、宿場と門前に由来する旧市街の道の規模は人間的で、新しい市街地で目指された人と車が折り合う道づくりの成果と合わせて、自動車ではなく人を中心とした道づくりに活かせるものと考えられます。



日光道中絵図巻の間々田宿を描いた部分を見る。画面右下に龍昌寺、左下に浄光寺、左上に行泉寺が描かれる。

出典:「日光道中絵図巻5 野木宿より小金井宿まで」国立公文書館デジタルアーカイブ

<https://www.digital.archives.go.jp/img.L/1603304> CCO

## 4 | 間々田地区での暮らしと意識

前半で概況を紹介したような地形や都市の形成の歴史の上に、人々はどんな意識でどのような暮らしを営んでいるのでしょうか。郵送形式とインターネットでのアンケートを実施、また3グループ合計15名の方に聞き取り調査にご協力をいただきました。アンケートは無作為抽出により2500世帯に送付し(7通が宛先不明で戻り)571名から回答をいただき(回収率22.9%)、インターネットでは88名に回答をいただきました。その成果から一部を抜粋し、この章では住民の方々の声も交えながら紹介します。

### 4-1 アンケート調査からの報告

アンケートの設問【1】【2】の集計結果をもとに、間々田地区で暮らす人々の①出身地、移り住んだ経緯や理由、②生活圏、③地域資源への認知度・関心度についてまとめました。

#### ①回答者の出身地

|                   |                |                  |                      |
|-------------------|----------------|------------------|----------------------|
| 間々田地区で生まれた<br>18% | 県外からの移住<br>51% | 県内の他の市町から<br>19% | 小山市内の<br>他地区から<br>9% |
|-------------------|----------------|------------------|----------------------|

他に無記入・無効計20名

JR東北本線間々田駅があり、地区の面積の約4割が市街化区域となっている間々田地区では、これまでに大型の分譲住宅団地などの造成も進み、小山市外や栃木県外から多くのかたが移り住んでいる実情が回答結果からもうかがえます。Uターン理由を書いていたコメントからは、「交通の利便性と自然の豊かさの両方がある」という地区の特性が浮かび上がります。

#### ②生活圏

以下の3種類の行動で出かける地域を訪ねた質問の回答、上位3地域を示します。休みの日についての問いは2つ選択可としてします。間々田地区では、日常生活と休日の自然の中での余暇活動は、地区内で完結している回答者が圧倒的に多くなっています。一方で「特別な買い物や会食、イベントなど」に出かけるのは間々田地区ではなく、小山地区(駅東)、同(駅西)、宇都宮市、東京都が上位となっています。

|                    |            |      |
|--------------------|------------|------|
| 日常的<br>買い物...      | 1 間々田地区    | 423名 |
|                    | 2 小山地区(駅東) | 77名  |
|                    | 3 小山地区(駅西) | 67名  |
| 休日の特別な<br>買い物や食事など | 1 小山地区(駅東) | 227名 |
|                    | 2 小山地区(駅西) | 192名 |
|                    | 3 宇都宮      | 134名 |
| 休日の自然の中<br>などでの余暇  | 1 県内の他の市町  | 197名 |
|                    | 2 間々田地区    | 163名 |
|                    | 3 茨城県      | 126名 |

\*県内の他の市町:選択肢に挙げていない栃木市と野木町以外の市町

#### ③地域資源への認知度・関心度

間々田地区の特徴としては、歴史的資源、自然環境については「よく/まあまあ知っている」が40%前後ですが、農業に関しては20%台と低くなります。同じく市街化が進んでいる大谷北中部も同様の傾向があります。

##### 1 地区の歴史や史跡、寺社、祭りなどを……

| 知っている |     |     |     | 知らない |     |     |    | 関心がある |     |     |    | 関心がない |     |     |    |
|-------|-----|-----|-----|------|-----|-----|----|-------|-----|-----|----|-------|-----|-----|----|
| 38%   |     |     |     | 60%  |     |     |    | 53%   |     |     |    | 46%   |     |     |    |
| よく    | まあ  | あまり | 全く  | よく   | まあ  | あまり | 全く | とても   | まあ  | あまり | 全く | とても   | まあ  | あまり | 全く |
| 4%    | 34% | 46% | 14% | 6%   | 47% | 37% | 9% | 6%    | 47% | 37% | 9% | 6%    | 47% | 37% | 9% |

##### 2 公園、街路樹、平地林などまちなかに残る自然を……

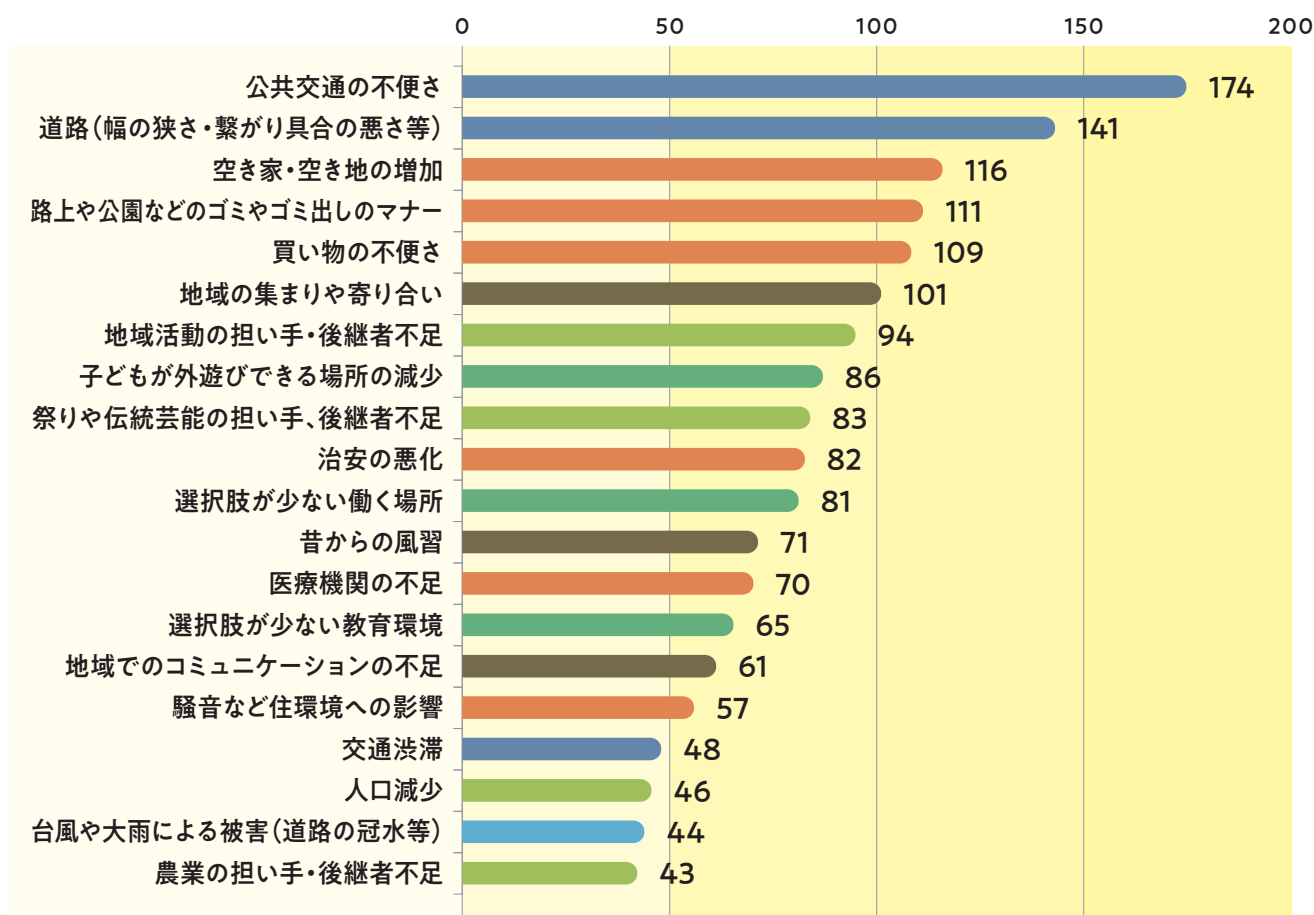
| 知っている |     |     |    | 知らない |     |     |    | 関心がある |     |     |    | 関心がない |     |     |    |
|-------|-----|-----|----|------|-----|-----|----|-------|-----|-----|----|-------|-----|-----|----|
| 44%   |     |     |    | 55%  |     |     |    | 63%   |     |     |    | 36%   |     |     |    |
| よく    | まあ  | あまり | 全く | よく   | まあ  | あまり | 全く | とても   | まあ  | あまり | 全く | とても   | まあ  | あまり | 全く |
| 6%    | 38% | 46% | 9% | 14%  | 49% | 30% | 6% | 14%   | 49% | 30% | 6% | 14%   | 49% | 30% | 6% |

##### 3 地区で行われている農業について……

| 知っている |     |     |     | 知らない |     |     |     | 関心がある |     |     |     | 関心がない |     |     |     |
|-------|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-----|
| 24%   |     |     |     | 75%  |     |     |     | 43%   |     |     |     | 57%   |     |     |     |
| よく    | まあ  | あまり | 全く  | よく   | まあ  | あまり | 全く  | とても   | まあ  | あまり | 全く  | とても   | まあ  | あまり | 全く  |
| 2%    | 22% | 54% | 21% | 6%   | 37% | 45% | 12% | 6%    | 37% | 45% | 12% | 6%    | 37% | 45% | 12% |

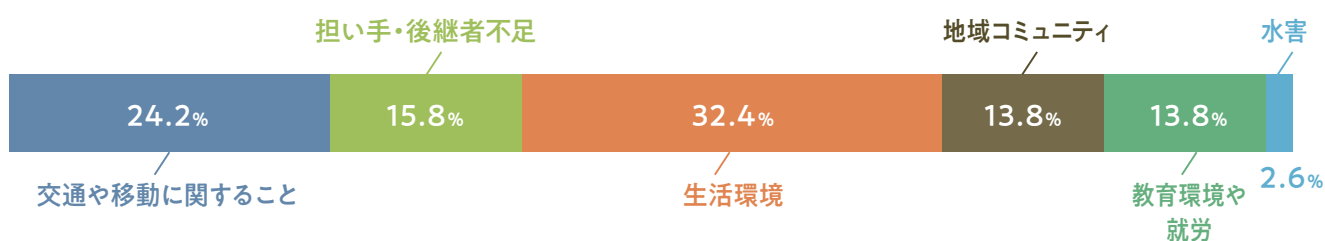
## 4-2 無くしたい、解消したい、間々田地区の困りごと

アンケートの設問【4】で「無くしたい、解消したい、解決したい困りごとは、何でしょうか?」と問い、聞き取りをもとに用意した選択肢から3つを選んでもらいました



数字は回答者数。その他41名、無記入43名。

その他と無記入を除いた選択肢を、5つの領域に分けて全体に占める割合を出してみると……。



### 生活の利便性の向上を願う

間々田地区は、田畑も残しながら市街化が進み、人口も増え続けてきました。また、JR東北本線の間々田駅があり、本アンケートでUターン理由には「交通の利便性が良いことと自然環境が残っていること」が間々田地区の魅力として挙げられています。とはいえ、この「解消したい困りごと」の集計結果では、「公共交通の不便さ」「道路状況の悪さ」「空き家・空き地の増加」が上位を占め、生活環境への不満も少なくはありません。また、人口は増加しているものの、地域活動のさまざまな担い手不足であることも、集計結果から浮かび上がっています。その詳細については、次ページで住民の声を紹介します。



風土性調査報告「間々田地区 基礎資料」(II踏査及び文献調査による報告)より。



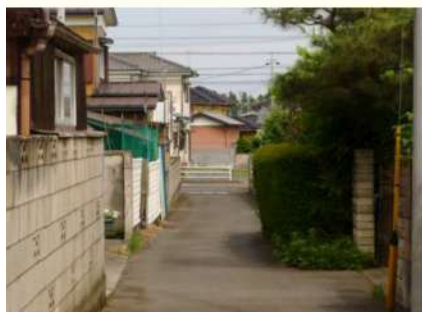
西館通り-乙女上町公園。乙女。2024/05/21



おさんみち公園に沿う歩専道。東間々田



歩車共存道路。美しが丘。2024/05/15



途中から幅員が狭くなる路地。乙女



龍昌寺参道。間々田。2024/05/22



間々田八幡宮参道。間々田。2024/05/21

上段は区画整理による人間的な道づくりの例。

下段は宿場と門前の街区構成に由来する道で、元が人間的な道。人と車の折り合いの検討を、改めて。

出典: 栃木県小山市教育委員会「千駄塚浅間道跡発掘調査報告書」1996年、7頁

間々田地区の解消したい困りごとについて、アンケートの設問【4】に寄せられた自由記述から抜粋して紹介します。

国道4号線沿いに空き店舗が多く、  
それらの有効活用が  
今後の重要な課題ではないか

— アンケート【4】自由記述より —

### 移動の問題～公共交通・道路の不具合や交通渋滞

- おーバスの停留所までが遠く便数も少ない。これでは利用したくてもできない
- 間々田駅までバスに乗りたいが、本数が少ない。結局車に乗ってしまう
- 車社会なのに、頻繁に小さな渋滞が発生しており、別の道を使ってもそっちも混んでいることが多い。道路の路面状態も悪いところが多い
- 間々田小学校、中学校への道幅が非常に狭いです。通学時間に車が侵入することがあり危険です

### 空き家の問題

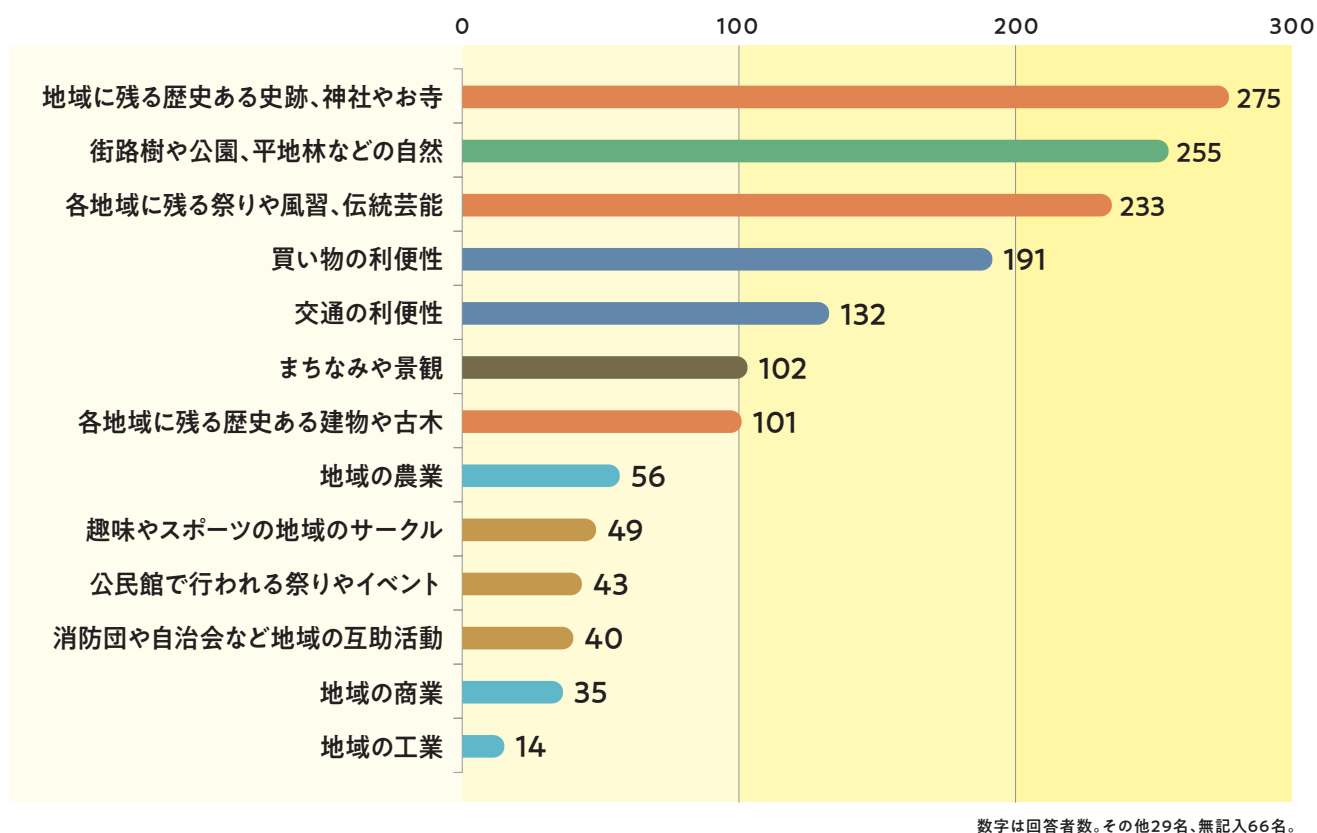
- 空き家空き地が目立つようになった。古い蔵や古民家などをリノベーションや活用できないか
- 空き家は防犯的によくない。害虫も発生して困る
- 空き家問題は全国的にあるが、今後ますます増え、自分たちもいずれは子どもが巣立ち、直面する問題だと思う

### 地域運営の問題

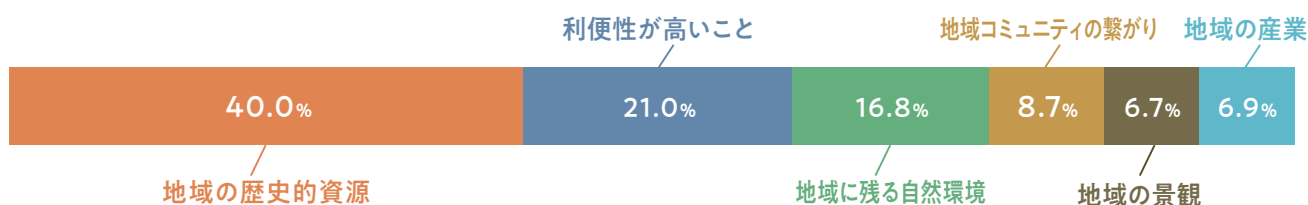
- 自治会活動や役員の担い手は、毎年減少や脱会が続いており止まらない。自治会そのものを小さくして役割も削減していかないと、現役世代は負担やストレスを感じて続けてくれない。必要最小限のコミュニティや役割だけを残せばよい
- 祭りの意味も知らず行う育成会行事や、高齢者が増えている中で、自治会役員の選出には、出来る人が減っているのが苦労が多い

#### 4-3 大切に守っていききたい、間々田地区の小さな自慢

アンケートの設問【5】で「大切に守っていききたい「小さな自慢」は何でしょうか?」と問い、聞き取りをもとに用意した選択肢から3つを選んでもらいました。



その他と無記入を除いた選択肢を、6つの領域に分けて全体に占める割合を出してみると……



新しく移り住んできた方々が多く暮らす間々田地区でも、地域に残る有形無形の歴史的な地域資源を大切にしたいという意識が強く表れた結果になっています。また、移動や買い物の利便性を享受しながらも、宅地開発などで自然環境が急激に減少してきたという背景を踏まえ、回答者の5人に2人（回答者654名中255名）が「まちなかに残っている自然を大切に守りたい」という意思を表明した結果になっています。また、消防団や自治会活動など地域での互助活動についての意識があまり高くはない様子が見えませんが、他の市街化が急速に進んだ地区でも同様の傾向が見られ、新住民が増加する地区での互助活動については、今後の新しいあり方を探っていくことが必要になると言えます。





間々田東小学校(右奥)と同校自然観察林(左)。南飯田



「間々田東小自然観察林」。平和。2024/05/15

間々田東小学校の自然観察林は、貴重な事例です。  
林の植生はクヌギ-コナラ群集で、果樹園(クリ、ナシ)、  
畑地と道を挟んで接し、その先に水田があり、  
自然の樹林-草地-水辺の接続に近い生態環境が。

間々田地区の大切に守りたいことについて、アンケートの設問【5】に寄せられた自由記述から抜粋して紹介します。

街路樹や花や緑に安心感を覚える。  
人間だけではなく、鳥や小さな虫、生きものたちが  
気持ちよく生きられる、自然と共生できるまちに

アンケート【5】自由記述より

### 歴史的な地域資源の保全と継承

- じゃがまいたの風習そのものはとても素晴らしく地域のシンボルとしてこれからも大切に守りたい。ただ、GWのほぼ全てが動員されてしまう…。今後も持続可能な祭りであるためには新しい方策が必要では。ゆるく薄く広くでも関わり代がある祭りになって欲しいと思います
- 蛇祭りは、子供が小さい頃は育成会など参加していましたが、大きくなった今、今年は自治会で久しぶりに参加してみて、良いお祭りだと再認識しました
- 地域のお祭り等に昔からの人と新しく入居された方のコミュニケーション不足。若い人が地域に入らない

### 自然環境

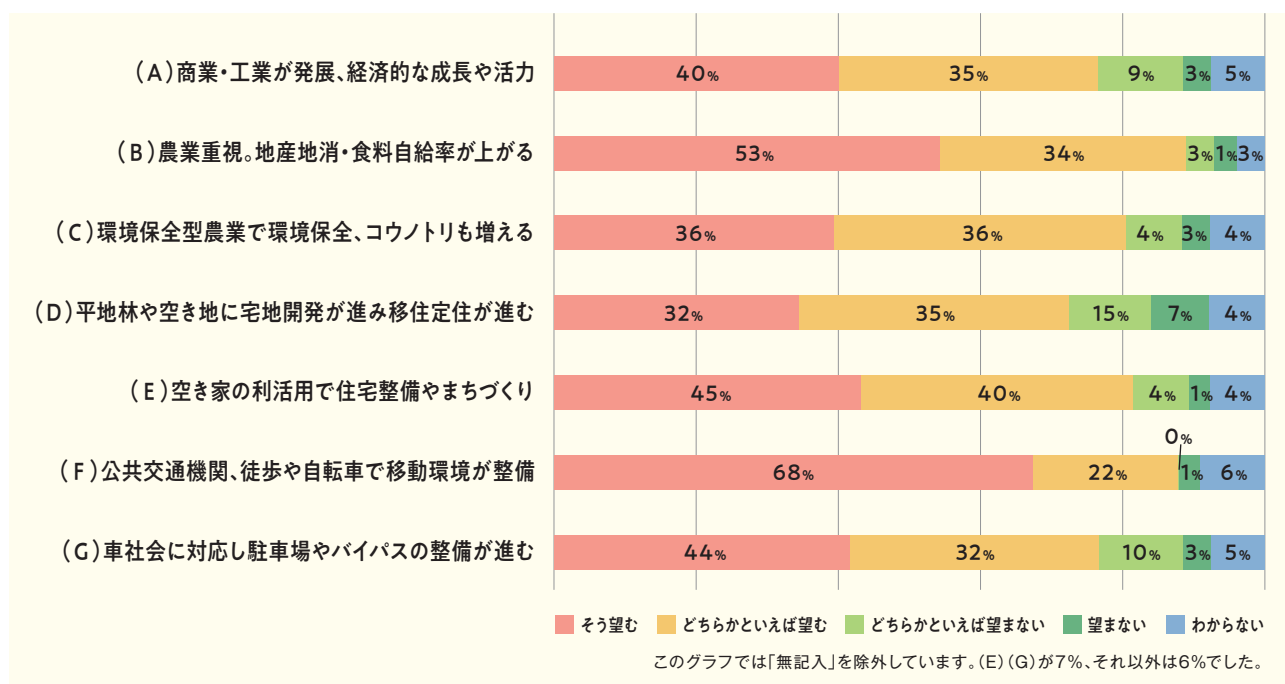
- 鶯やキジなど鳥の鳴き声に癒される。昔は朝早いと山からカッコウが飛んできて鳴いていた
- ここ数年で広大な平地林が伐採され、環境への影響や治安の悪化(大きなトラックの路上駐車や運転マナー)を懸念しています

### 買い物の利便性

- お店が増えて、生活用品の買い物がとても便利になりました
- お年寄りが増えてよく聞く話が、買い物が不便だということです。昔の乙女も間々田も商店街があり、いろいろなお店がありました。今はシャッター街になり、さびれてしまいました。空き地や空き家で商売をやりたい若い人がいたら市で協力してチャンスをあげてほしいと思います

## 5 | 田園環境と都市環境の調和がとれたまちづくりへ(1)

次に、アンケート集計結果より、「20年後、30年後の小山市の望ましい都市環境のあり方について」尋ねた【7】の結果を紹介します。例示した小山市の将来像7項目について、それぞれ「そう望む・どちらかと言えば望む・どちらかと言えば望まない・望まない・わからない」から選んでいただきました。間々田地区の皆さんからの、未来の小山市への視点です。



7項目の全文は、以下の通り。(A) 商業・工業が発展し、工業団地も増え経済的な成長や活力が重んじられている小山市 (B) 地域の農業が大切にされ、地産地消が進み、市域内の食料自給率が上がっている小山市 (C) 環境保全型の農業によって自然環境も良好に保たれ、コウノトリも増えている小山市 (D) 空き地や平地林などに新しい宅地開発が進み、定住する若い世代や移住者が増える小山市 (E) 空き家の改修や利活用が進み、あるものを大切にしたい住宅整備やまちづくりが進む小山市 (F) 公共交通機関の整備や、徒歩や自転車で安全・快適に移動できるまちづくりが進む小山市 (G) 車社会に対応して、駐車場やバイパスの整備など、車での移動が快適になる小山市

### 田園地帯での共通性と間々田地区の特性

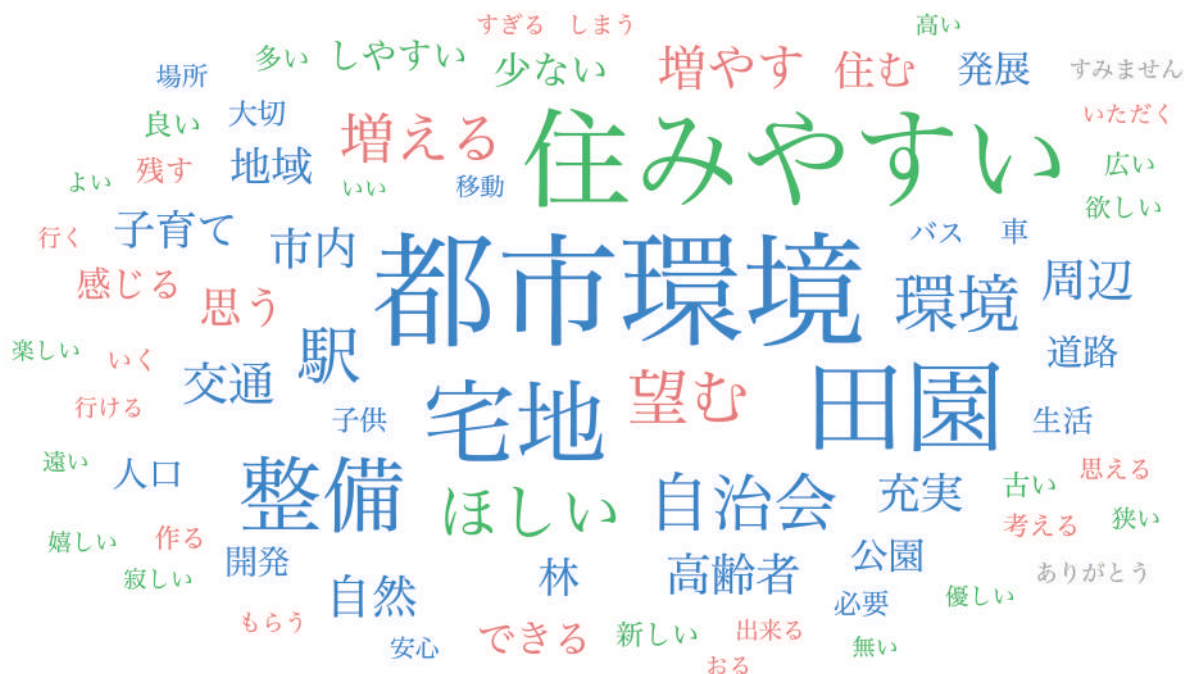
7つの項目を支持・共感者が多い順(「そう望む」「どちらかと言えば望む」の割合の合計が高い順)に並べると、間々田地区の結果は以下のようになります

- 1 90% (68) (F) 公共交通機関の整備や、徒歩や自転車で安全・快適に移動できるまちづくりが進む
- 2 87% (53) (B) 地域の農業が大切にされ、地産地消が進み、市域内の食料自給率が上がっている
- 3 85% (45) (E) 空き家の改修や利活用が進み、あるものを大切にしたい住宅整備やまちづくりが進む
- 4 82% (46) (C) 環境保全型の農業によって自然環境も良好に保たれ、コウノトリも増えている
- 5 76% (44) (G) 車社会に対応して、駐車場やバイパスの整備など、車での移動が快適になる
- 6 75% (40) (A) 商業・工業が発展し、工業団地も増え経済的な成長や活力が重んじられている
- 7 67% (32) (D) 空き地や平地林などに新しい宅地開発が進み、定住する若い世代や移住者が増

都市部でも田園部でも上位3項目に「公共交通機関の整備」「農業重視」「空き家の利活用」の順で並ぶ傾向が見られます。細かに確認すると地域差が出ていることもあり、間々田地区の場合の特徴は、住宅を供給する方法として、(D)「空き地や平地林などに新しい宅地開発」を (E)「空き家の改修や利活用」が20%近く上回っていることです。

## 6 田園環境と都市環境の調和が取れたまちづくりへ(2)

次に設問【7】の自由記述欄(30年後へのご意見)に寄せられたコメント全件で多用された言葉を紹介します。テキストマイニングという解析ツールによるキーワードの抽出です。基本的には語られた回数が多いもので大きく表示され、調査対象に特徴的に使用される固有の単語は重視される統計処理法が用いられています。一つの参考としてご覧ください。



アンケート調査【4】大切なもの【5】困りごと【7】未来の姿へのご意見27,509字から抽出（※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析（<https://textmining.userlocal.jp/>））

## 間々田地区や小山市の望ましい未来の姿

設問【7】の自由記述欄に寄せられたご意見から一部を抜粋して紹介します。

●せっかく思川桜があるのだから公園などに植栽して市民の憩える公園、ピオ  
トープなどを作って、モロコなど自然に観察できるところを作ってはいかがで  
しょうか ●間々田地区東側で近年、平地林の宅地、商業地の開発、小山～野  
木への新道路環境開発が進行中ですが、利便性が良くなる反面、自然が破壊さ  
れつつあり、野鳥、動物の声、姿が少なくなってきた事に懸念を感じます

●都会と田舎の中間の感じが小山市にはあると思います。自然や農業を大切にしながら住みやすい地域に。ぜひ若い人の意見を大切に、耳をかたむけてまちづくりを ●最近林の木々が伐採され、どんどんと開発され続けています。便利に

なるのはよいのですが、自然の多いこの地域が変化していくのは忍びないです。田も林もあまり潰さず、自然を大切にしておけないものではないでしょうか。小山駅周辺をもっと都会的に開発し、まわりは自然いっぱいに！都市環境と田園環境を行き来しやすい車の整備。老後、安心して免許を返納できるような公共交通機関の整備がほしい ●小山市は平地に恵まれ、自然災害に見舞われることがあっても甚大な被害にまでは至らない地域であると思われる。少なくとも観光地ではないので、今さら他からの集客に期待するのではなく、たとえ特徴がなくとも、大概のものが市内でまかなうことができるような町づくりをすべきだと思う。水産物の養殖、畜産などが行われて、それがブランド化すれば喜ばしいと思う

生活に必要な大型商店があり、  
その中に公園や平地林を残し、  
若い人が働ける、子育てが楽しく、  
他地へ行かなくとも生活できる。  
そんな間々田地区にしたいと切に願う。



## 7 | グループインタビューより：間々田地区の課題と未来への展望

平成6年3月から5月にかけて、自治会長の方々、子育て世代の方々、農業従事者の方々の合計15名に、座談会形式のグループインタビューで聞き取り調査にご協力をいただきました。そこで語られた内容から、一部を抜粋して紹介します。

### じゃがまいたや奉納相撲

●じゃがまいたの場合、昔は男の子だけが担い手だったが、自治会によっては子どもの数が減少し、今は女の子にも参加してもらっているし、外国籍の方や他の地区のお子さん也希望があれば参加してもらおうようにしていないと…。●材料の藁、竹、シタなどの調達、年々難しくなっていて、少子高齢化、農業や平地林の減少とも関わる問題だ ●どの町内でも子どもを大事にしている。そして中学3年生が一応、親分としてみんなの面倒をみる。じゃがまいたも間々田と乙女の奉納相撲も、何としてもこれを継承していかなければいけない

### 自治会運営

●企業の定年が延び、退職して自治会活動の新人となる人々の年齢が65～70歳になった。活発に動くにはやや遅いし、そもそも億劫がる人も増えている。担い手の問題は難しい。●自治会に加入していない人が、自治会が管理しているゴミの集積所を利用できるかどうかなど、自治会で考え方も違うし、難しい。行政主導で指針があるといいのだが。●これからの時代は、子どもや若い人が楽しんで気軽に参加できる催事を増やしていきたい

### 思川と商店街の再生を

●川の土手も汚いとゴミの不法投棄が増える。間々田は思川が流れる土地であることを大切にしたい。環境面もきれいにし、特に間中橋から乙女大橋だけ川底を深く掘り、昔のように舟を渡すなどできないだろうか。●4号線沿いのシャッターがおりた商店街を何とかしたい。子どもも大人も、そしてお店をやりたい若い人など、いろんな人を絡めて活性化したい。かつて賑わっていたところで、良い循環が生まれるような取組みを

### 子どもを取り巻く環境

●住宅が増えて公園が増えていけど、小学生が思い切りボール遊びできる場所がほとんどない。●就学前の子どもと親の居場所として児童館があると思う。小山地区などにはあると聞いているけど…。他の都市に比べて小山市では子育て中の親に認知されていないし、あまり活用されているように思えず、とても残念なこと。●間々田紐、蛇祭り、お囃子、安房神社の御神楽…継承されてきた間々田の大切なものを子どもたちに伝えて残したい

### 間々田の農業

●耕作放棄地に粗大ゴミが不法投棄されているところも。土地改良や基盤整備がなされていない所は一筆が小さい、機械が入らない、道路につながっていないなど条件が悪い。借り手もない放棄地になる。そのような土地をどうするかが課題のひとつ。●田んぼも集積化で全てがうまくいっているわけではない。現役の担い手に水田を耕作してもらい集積化が進んでも、その人に後継者がいないと、数年後に広い範囲で放棄地になりかねない。●これから、就農したい若い人が出てきた場合に、サポートできるような組織になりたい。離農する先輩農家の設備を引き継げるようにしたり、とりあえずお膳立てまでしてあげたい。そして若い農家が育てれば、自分たちの出荷組合というものできて、それがちゃんと法人として成り立っていくようにしていきたい。それが夢